

Career up Shinko!

神港学園
神港高等学校
進路指導部
キャリアアップ
サポート通信第5号
平成27年11月4日

二十四節気(太陽の黄道(こうどう)上の動きを視黄経の15度ごとに24等分して約15日ごとに分けた季節のこと)の「霜降」を過ぎ、早朝には実際に霜を見る季節になりました。中間考査の結果はどうだったでしょうか?3年生は、いよいよ公募制推薦入試の真っ只中です。また10月23日の1~2年生のキャリア教育活動は、どうでしたか?自身の人生に影響するインパクトがありましたか?さて、キャリアアップ通信第5号をお届けします。今回は、助産師、看護師をされておられる3人の方からのご回答メッセージです。B様(助産師)、C様(看護師)、D様(看護師)の3人の方のご回答を順にB、C、Dとさせていただきます。質問は、1~2年生の7人からいただきました。

看護師・助産師について

Q1:なぜ助産師や看護師になろうと思ったのですか?

A1: B;子供の頃から生命の誕生に興味があったのと、長期通院の経験があり、病院で働く人達の姿を見て医療関係の仕事に就きたいと思ったから。又、何でも構わないが資格を取ることを母親に勧められた事と、自分自身も一般的な事務仕事よりも身体を動かす仕事の方が自分に向いていると思ったからです。

C;私は看護師の仕事に憧れてとかということはありませんでした。仕事内容もほとんど知らなかったというのが本当です。進路を考える高2の頃、その当時は女子の進学は短大が多かった時代でした。しかし、家庭の経済状態で大学進学は難しい状況でした。親からも就職を勧められていました。私はまだ就職はしたくなかったというのが本音です。どうしようと考えたときに、たまたま数学と生物が得意だったということと、周りに看護学校を目指すという同級生が数名いたことで「そういう道もあるんだ」と知ったことがきっかけでした。そして、当時の看護学校というのは全寮制が主で最初の入学金(教科書代)とお小遣い程度の資金で毎月の授業料と寮費(食費)は看護師になってから3年間勤務すれば返さなくてもいいという条件でした。

D;母が看護師でした。就職難の時代に自立して生涯やりがいを持って続けられる仕事だと思って看護師になりました。

Q2:やっていて楽しいことやしんどいことを教えて下さい。

A2: B;楽しい事は、無事に赤ちゃんがお生まれになって、そのご家族の笑顔が見られた時。新生児の姿を見るだけでも可愛くてウキウキします。しんどい事は、身体的には、不規則勤務であること。精神的には、死産などに立ち合う時です。

C;楽しいというのはどんな職場でも一緒だと思いますが、スタッフの人間関係が良好であれば楽しいです。看護師の仕事をしていて感じるのは楽しさではなくて充実感だと思います。しんどいことは体力的に夜勤をしたり不規則な勤務はしんどいと思います。精神的にしんどいと思ったのは若い方の死が続いた時です。

D;楽しいことは患者さまの役に立てたときです。感謝を示されたり、自分の判断でしたことが、良い結果に繋がった時にやりがいを感じます。しんどい時は、業務が多忙であったり、常に勉強しないといけないときにしんどく感じることもあります。けれど、医療は日々進化しているので、常に新しい知識は必要となります。自分のキャリアアップのためだと思って、努力するようにしています。看護師になってからの3年間ほどの病院でもカリキュラムを組んで新人看護師の育成に力を入れています。その間が一番大変な時期だと思います。

Q3:具体的にどのような仕事がありますか?

A3: B;施設(病院)勤務の場合、妊娠中や産褥期の保健指導や分娩介助、産褥期のケア、新生児のケア、授乳やその他の育児手技の指導、育児相談など。学生実習を受け入れている施設では、看護学生や助産師学生の臨床指導。小学校での命の授業など。

C;私はずっと病院勤務なのでまずそのことを書きます。病院には入院病棟、外来、救急室、手術室などがあります。病棟は3交代や2交代など不規則な勤務で24時間患者さんのお世話をします。主に医療の補助(患者さんの状態を観察したり、注射など医療行為を医師の指示で行います)

と日常生活の援助です。

D;看護師の業務は多岐にわたります。病院に受診した時の外来業務は診療の介助です。入院中の病棟業務では患者さまの身の周りのお世話や病状観察と異常の早期発見、処置や投薬、他職種と連携をしながら患者さまの入院生活を支えます。手術室の介助や内視鏡室の介助もあります。訪問看護では病状観察や清潔の保持のために洗髪や清拭をしたり、便処置やリハビリの介助などをします。施設の看護業務もあります。どの業務においても基本的に医師の指示のもとに、チームで関わることがほとんどです。

Q4:一番気をつけていることは何ですか?

A4: B;母児の安全。 C;患者さんの安全ですかね。

D;患者さまの些細な変化を見逃さず異常の早期発見をし、予測できる危険の予防に留意しています。投薬時にミスをしないうようにダブルチェックを心がけています。そして気軽に相談してもらえる看護師であるように言葉使いや態度を気をつけています。

Q5:看護大学や看護専門学校でやる実習や研修はどんなことをしますか?

A5: B;学内実習として、ベッドメイキングや清拭、洗髪の方法、剃毛や採血などの練習。学外では、病院などで色々な科(内科、外科、整形外科、脳外科、神経内科、小児科、産婦人科、精神科など)で、受け持ちの方に対して、その方の現状をアセスメントして、看護計画を立案、看護を実践します。又、特別養護老人ホームや重症心身障害児施設、保育所、保健所などの見学や実習など。採血、点滴などの医療行為は資格がないので行えません。

C;まず、基礎看護技術を学内で学ぶと思います。実習は主に実習病院に行きますが、小児科、産婦人科、精神科などいろんな実習があると思います。実際には看護計画を考えるというのが主で学生が実際に体験できることは少なくなっていると思います。

D;初めに学校で基本的な実習(シーツ交換、体位交換、洗髪、注射など)をうけます。次に病院に行き内科や小児科、外科、母性、精神科など様々な科で患者さまを受け持ち実習します。訪問看護や保健所、老人施設の実習もありました。実習場所は学校によって違います。実習のカリキュラム内容も数年で改訂があるようです。看護師の仕事はチーム医療であり、患者さまとの関わりも必要なのでコミュニケーション能力が求められます。学校ではグループでカンファレンスをよく行うと思います。

Q6:どのような資格を取れば有利ですか?

A6: B;受験科目は専門学校なら大体、数学、英語、理科(生物 or 化学)のところが多と思うので、その勉強をされると良いと思います。実際に国家試験を受けて看護師になった後は、自分の興味のある分野で更に勉強をされると認定看護師などの資格がとれます。

C;資格はまず看護師国家資格ですね。あと助産師や保健師という資格もあります。看護師になってからは新人教育プランというのがそれぞれの病院であると思います。その後専門看護師や認定看護師、管理職、研究など選択していくように最近はなっています。

D;日本看護協会による「認定看護師」といった資格があります。

Q7:授業の内容はどのようなものですか?

A7: B;解剖学、生理学、病理学、薬理学、心理学、社会学や、基礎看護学、成人看護学、老人看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学など。大学の場合はその前に一般教養などの授業があります。

C;私が受けた時は1年生で解剖学、薬理学、生理学、微生物学、基礎看護学などの授業があり、1年生の後半で基礎実習といって病院に初めて行ったと思います。2年生の前半に基礎実習で2年生後半から3年生の中ごろまでいろんなところを実習で回りました。私が受けた内容と今は変わっているかもしれません。

D;専門学校でしたが、1年生の時は英語や体育もありました。解剖学、生物学、薬学、栄養学、病理学、成人看護、母性、小児、老人などの授業がありました。

Q8:助産師になるための資格がありますか?大学で専門的に学ぶのですか?

A8: B;助産師になるためには、まず助産師国家試験の受験資格が必要となり、その為に看護師資格を有し、6ヶ月以上(実際には1年)の専門の教育と実習(分娩介助10例以上や初産婦、経産婦各1例の継続ケース実習など)を行う必要があります。最近では、看護師資格と助産師資格を同時にとれる4年のカリキュラムで学べる学校も出来ているようです。

C;看護師の資格を取った後に助産師学校を受験し1年行って資格をとった人もいました。たぶん大学もあると思います。

D;助産師になるには看護専門学校を卒業後助産師学校を受験し卒業して助産師の国家試験に合格するなどの方法があります。(以上です)